

2018年11月29日

2018年度 明治大学大学院外国人学識者招聘事業報告書

コーディネーター

研究科： 経営学研究科

職 格： 専任教授

氏 名： カク 燕書

1. 外国人学識者

- ・氏 名： 許 光建
- ・所属機関： 中国人民大学公共管理学院
- ・招聘期間： 2018年9月29日～2018年10月19日（計21日間）

（外国人学識者紹介）

経済学博士学位（2003年）。現在中国人民大学教授、公共管理学院常務副院長。中国価格協会常務理事、中国国際経済関係学会常務理事などの学術団体の職務を兼任している。主な授業と研究領域：中国経済改革、マクロ経済政策、財政理論と政策、価格政策などである。2006年と2010年に2回に亘り、明治大学で講義と交流を行った。出版の著作は『応用経済学』などがある。学術出版物で発表した論文が数十本になる。その内に明治大学『明治経営評論』において『中国の対外投資分析』を発表した。

2. 総括および今後の展望

「明治大学大学院外国人学識者招聘事業」の招聘教授として、2018年9月29日から2018年10月19日まで、明治大学大学院において教育と研究を実施していただいた。その内容を下記のとおり報告する。

今回は全5回の特別講座が行われた。各回講座の参加者は全て大学院生で、各回とも参加者は15名前後であった。各回講座のテーマは、「中国と米国の貿易摩擦問題」、「中国における対外貿易の発展と改革」、「中国におけるPPPの発展」、「中国の財政と税収制度の改革」等である。

第一回目と第二回目の講座は、中国と米国の貿易摩擦について行われた。中国と米国の貿易摩擦と紛争は現在国際社会に広く注目されている重要な問題の一つであって、明治大学大学院生も重要な関心事でもある。この講座の中で、2018年以来中米貿易摩擦の進行過程と中国の対応策を回顧した。中米輸出入の基本データを分析した上で、2001年11月中国が世界貿易機関（WTO）に加盟して以来輸出入の構造変化趨勢を提示し、いくつかの結論

を引出した。さらに米国の増税措置による中国経済への影響を分析し、その上で若干の政策提言を提出した。

第三回目の講座は、中国の対外貿易発展と改革について行われた。この講座の中で、1978年改革开放以来、特に2001年中国が加入世界貿易機関（WTO）に加盟して以来、中国対外貿易の改革と発展過程を回顧し、その上、中国対外貿易の特徴を論述した。その中に対外貿易への依存度の変動趨勢、世界におけるポジションと役割の変動趨勢、中国と米国、中国と日本など発達国家の貿易関係の変化が含まれる。重点的に中国が長い間に比較的大規模な貿易黒字の形成要素を分析した。これらの要素に、グローバル化の影響、海外でのアウトソーシング、IT技術の進歩、海運技術と施設の大きな進歩、そして外国企業による直接投資の影響は含まれる。中国の対外貿易の構造上の特徴は、加工貿易の比重が比較的高い。この講座の中で中国市場経済の地位問題と「一带一路」（提案）の発展状況についても議論された。

第四回目の講座は、中国におけるPPPモデルの発展について行われた。まず、1978年に中国が公とプライベートの合作パートナー関係モデル（PPP）の導入と実験、そして発展過程を回顧した。次にPPPの特徴とメカニズム、およびリスク防止などの問題を分析した。第三に、日本のPPPモデルの現状と特徴を紹介し、そしてそれを中国の状況と比較研究した。最後に北京市第十供水場のPPPモデルを実例にし、それを説明し、重点的にPPPの実施に伴うリスクについて説明した。

第五回目の講座は、中国の財政と税収改革について行われた。この講座の中、現在中国で行われている「減税降费」という改革についても分析と論述を行っていた。まず、現在中国が財政政策と税収制度の改革を行っている国際と国内における背景、特に国際的税収競争の大環境を回顧した。次に中国の財政と税収改革の目標と主な内容について論述した。最後に重点的に中国の税収制度と政策の改革について分析をした。講座の中で税収制度改革の方向性について展望した。今後中国の税収制度改革は個人所得税、不動産税などの直接税の改革を加速すべき、特に不動産税の改革を徐々に推進すべきである。

2006年と2010年に許光建教授は二度にわたって、明治大学経営学大学院に招かれ、講義と共同研究を行っていた。明治大学大学院とカク燕書教授とは長期的に学術交流を続けてきた。今回明治大学大学院で講義を行うときに感じたのは、学生たちが中国の経済問題に対し強い関心を持ち、授業中に積極的に質問し、議論することである。学習の雰囲気が高く、経済理論と社会の現実と結びついて、視野を広げた。明治大学大学院生たちの学習意欲が高く、中国経済と経営に強い関心を持っていると感じた。

これから明治大学と中国人民大学の学術の交流の中でさらなる役割を発揮し、積極的に共同研究を展開し、双方の大学院の交流にさらなる大きなサポートを提供したい。

以上